

美術館の春まつり

東京国立近代美術館(竹橋) 2021.03.23~04.11



当美術館は、皇居、千鳥が淵、北の丸公園といった“桜の名所”エリアに立地しているため、散策で巡るにも絶好のロケーションにあることから、春にちなんだ「美術館の春まつり」開催で、“美術館で味わう春”を堪能できる。

絵筆の先からしっとりと、散らない花がひらきます。
心のつぼみもほころんで、貴方に今日が咲きますように。

川合玉堂 (カワイギョクドウ) 《行く春》 彩色・紙本・屏風6曲・1双



画伯(1873~1957)は、前年の秋と今年の春まだ浅き頃に秩父・長瀬から4里の川下りを楽しみ、その折の自然の大景観が制作のモチーフになっている。

作品は、対岸の巖にあわい光が映え、その照り返しに水のぬるみも感じられる桜花散る爛漫の景である。優美(たおやか)な情感を平明に表現する画伯には珍しく、体験から制作への間に一大構想が練られたように思われる。

跡見玉枝 《桜花図鑑(部分)》 1934年



船田玉樹 《花の夕》 1938年



尚、「東京国立近代美術館」館内のギャラリーでは、所蔵作品「MOMAT コレクション」、「あやしい絵展」およびコレクションによる小企画「幻視するレンズ」展が、同時に開催されているので必見であろう。